



アラスジケマンガイ (マルスダレガイ目マルスダレガイ科) *Gafrarium tumidum*

大きさ：殻長 4.5cm。

特徴：殻は重厚で、表面には太い放射肋がある。潮干狩りの対象種でおいしい。

分布：奄美諸島以南：インド洋。

泡瀬干潟では、いままで約 300 種の貝類が確認され、琉球列島の干潟の中で最も種数が多いといわれている。今でも新たに発見されており、約 500 種もの貝類が生息すると考えられている。記録される貝の中でも、二枚貝が非常に多いのも特徴の一つである。

ソメワケグリなどの二枚貝に共生して生活する珍しい二枚貝「ニライカナイゴウナ」やゴカイ類の体液を餌にして共生する小さな巻貝、またヤマトオサガニと共生する二枚貝「ユンタクシジミ」など、他の生き物と共生する貝類も知られている。貝類が多く生息することから、泡瀬干潟には多種多様な環境が存在することが明らかとなっている。上部写真右側は、リュウキュウシラトリと思われる二枚貝である。

大潮で広大な干潟が現れると、地元の人たちが多く泡瀬干潟上を散策する光景がみられる。その目的は、海藻などやタコなどをとる人もいるが、多くが二枚貝などの食用となる貝を採ることである。また、地元小学校など教育機関も環境学習の一環で、干潟観察をしている。

干潟は、多くの人たちの憩いの場ともなっている。